



農事普及だより

（4月号 平成28年4月1日～4月30日）

【発行】 鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業観光課

つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店

【編集】 西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室



（平成28年3月25日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より）
天気は数日の周期で変わってしょう。気温は、高い確率50％です。

気象

健苗育成と適期作業で初期生育を確保しましょう。

1. 育 苗

(1) 催芽（芽出し）

種子浸漬は浸種期間10日～14日程度とし、日平均積算水温で100～120℃を確保する。10℃以下の低水温で種子消毒や浸種をした場合、日平均積算水温で100℃を確保しても、出芽不良や出芽遅れの原因となる場合があるので注意する。

種子に十分吸水させた後、育苗器などを利用して30～32℃で16～20時間加温し、ハト胸状態にする。催芽温度が40℃以上になると発芽率が低下するので、風呂を使う場合、温度を上げすぎないよう管理に細心の注意を払う。

(2) は 種

は種量は、中苗で1箱当たり乾籾100g（ハト胸催芽籾で125g）とし、厚播きにならないよう注意する。

(3) 苗木枯病の予防

発病を抑制するため、床土のpHを5.0前後に調整し、育苗中は適温を保ち、過温や過乾燥を避ける。次の①又は②の方法で予防する。

- ① 床土への粉剤の混和〔は種前1箱（床土約5ℓ）当たり〕

フザリウム菌、ピシウム菌：タチガレースM粉剤 8g

リゾプス菌（くもの巣カビ）：タコニール粉剤 15～20g
- ② 床土への液剤・フロアブル剤のかん注（は種時1箱当たり）

フザリウム菌、ピシウム菌：タチガレースM液剤の500～1,000倍液を500ml、又は1,000倍液を1リットル

リゾプス菌（くもの巣カビ）：タコニール1000の500倍液を500ml、又は1,000倍液を1リットル

※タチガレースM粉剤・液剤の使用回数（箱育苗）

育苗期間中にタチガレースM粉剤とタチガレースM液剤を使用できる回数は各々1回以内。ただし、タチガレン液剤は、タチガレースM剤を使用した後に1回まで使用可能。

〈タチガレース剤の使用例（発芽後に土壌かん注をする場合）〉

| 使用時期 | 土壌混和 | は種時土壌かん注 | 発芽後土壌かん注 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 例1 | タチガレースM粉剤 | － | タチガレースM液剤 |
| 例2 | タチガレースM粉剤 | － | タチガレン液剤 |
| 例3 | － | タチガレースM液剤 | タチガレン液剤 |

(4) 苗代（置床）の注意事項

- ① ハウス育苗方式

育苗箱の底から出た根を置床に張りせる育苗方法では、置床の砕土を十分行き、箱か床に密着するよう凹凸をなくす。

置床にラブリート等の資材を敷く育苗方法では、置床を固めて均平にする。
- ② トンネル折表育苗方式

置床の硬さは目たぶ程度に調整し、必ず排水溝を設ける。

なお、育苗箱か床土に沈み込むような硬さだと、出芽障害の原因になる。

(5) 温度管理

生育に合わせて温度管理を行うため、必ず温度計を苗の高さに設置する。

- ① 出芽期まで

日中35℃以下。ハウスでは、シルバーポリトウなどで被覆し、水分保持と保温をする。天気の良い日には、出芽前でもハウスの換気を行い、35℃以上にならないように注意する（シルバーポリトウは風てめくれないように箱下に折り込むか、重しを置く）。
- ② 出芽揃期～1.5葉

日中30℃以下。ハウスの大部分の箱で7～8割程度の出芽が見えたら、早めに被覆資材を除覆する。持ち上がった覆土はかん水等で落ち着かせ、種籾が露出していたら土をかける。
- ③ 1.5～3葉

日中25℃以下。

- ④ 3葉以降

日中20℃以下。天気の良い日は外気に慣らし、苗を丈夫に育てる。
- ※霜・低温が予想される場合**
被覆資材での二重被覆を行うか、ハウス内に暖房器具を入れて保温する。
- (6) 水 管 理
- かん水は、床土が乾いたら午前中（地温が上がる前）にたっぷり行う。水のやり過ぎは箱内の根張りを弱くし、軟弱徒長苗になりやすいので、かん水の回数は控え気味に管理する。折表苗代では、過温にならないよう排水溝を必ず設置する。

2. 本田作業

(1) 施肥（基肥）

米の品質と食味向上のため、窒素施肥総量は、「つがるロマン」の場合6～8kg/10a、「まっしぐら」の場合7～10kg/10aとし、基肥量は、1回追肥体系の場合、総量の7～8割、2回追肥体系の場合、総量の6割とする（側条施肥の場合は、基肥を2割減する）。「青天の霹靂」の窒素施肥総量は「つがるロマン」より1kg/10a程度減し、全層種肥1回施肥体系を原則とする。多肥栽培では、倒伏したり、いもち病にかかりやすくなるほか、食味・品質の低下につながるため、昨年のいもち病の発生程度や倒伏状況に応じて基肥量を減らす。大豆の復元田では、生育が過剰となり、倒伏のおそれがあるため基肥8割減～無肥料とし、追肥は生育量や葉色を見て判断する。倒伏軽減と初期生育確保、登熟向上のため、ケイカルとようりんを施用すると効果的である。

(2) 耕起・代かき

耕起作業はていねいに行い、耕す深さは15cm程度を目標とする。稲わらを鋤き込んだ水田では、浮きわらを抑えるため、水深を浅めにして代かき作業をする。

りんご

りんごの発芽は早まる見込み！霜害防止対策の徹底を！！

りんごの発芽は早まる見込みである。展葉期を過ぎると霜害を受けやすい時期になるため、気象情報に十分注意し、霜害防止対策に万全を期す。

1. 霜害防止対策

(1) 安全限界温度

花芽の耐凍性は発芽とともに低下する。近年、福島県農業総合センター果樹研究所が報告したふじの安全限界温度は展葉期で－2.2℃、花蕾着色期で－2℃、開花始め・満開期で－1.5℃、落花期で－1.7℃であり、この温度以下に1時間おかれた場合に、わずかでも花芽に障害が発生するおそれがある。

(2) 防止対策

- ① 防霜ファンによる防止

一般的には地上1.5mに温度検知器を設置し、防霜ファンの始動温度を2℃に設定する。寒気を伴ったときや著しく低温になったときは、防止効果が小さいので燃焼法を併用する。
- ② 燃焼法による防止

あらかじめ燃焼資材を園地内に配置しておき、気温が0℃になったら点火する。

 - ・霜カット（おかくず：灯油の容量比＝2：1）
霜カット2kgを缶又は袋に入れ、10a当たり40～60個配置する。
 - ・A重油
4ℓ缶を利用する場合、10a当たり30缶以上を配置する。

| |
|--|
| <p>燃焼法を利用する場合は、灯油等の保管量が200～1,000ℓの場合は「少量危険物貯蔵届出書」の提出、1,000ℓ以上の場合は「危険物取扱者」の資格が必要であり、燃焼する際は「火災と紛らわしい煙又は火災を発生するおそれがある行為の届出書」などを所轄の消防署に提出する必要があります。</p> |
|--|

2. 粗皮削り

粗皮削りは、胴腐らんちの早期発見やハダニ類、クワコナカイガラムシの防除に役立つので、必ず実施する。輪紋病のいぼ病斑は、イボ状の病患部とその下の褐変組織を削り取ってトップジンMペーストを塗る。また、リンゴハダニやクワコナカイガラムシの卵等は見つけ次第取りつぶす。

3. 野そ被害樹の治療

樹幹を食害された場合、樹皮が幹周の4分の1以上残っているものは早めにパッチレート塗るか、テープを巻いてカルス形成を促し、それ以上食害されたものは植え替える。地際付近の樹皮を食害された場合は盛り土を行い、カルス形成を促すと同時に、可能なものは寄せ接ぎを行う。

4. 施 肥

(1) 施肥時期

遅くとも4月20日頃までに行うようにする。なお、石灰質肥料の施用は、3要素の施肥より後に行い、降雨があった場合は2～3日後に施用してよいが、降雨がない場合には2週間後を目安に施用する。

(2) 施 肥 量

右表のとおり。ただし、追肥を計画している園地では、年間窒素施用量の6割を基肥として施用する。また、果実の着色が良くない園地や樹勢が強い園地では、窒素施肥量を半分に減らす。

| 〈りんごの標準施肥量（年間総量、全園施用）〉 | | | | | |
|------------------------|-------------|-----|-----|-----|--|
| 区 分 | 施肥量（kg/10a） | | | | |
| 普通台樹 | わい性台樹 | 窒 素 | りん酸 | カ リ | |
| 成 木 | 6年生～ | 15 | 5 | 5 | |
| 6～10年生 | 4～5年生 | 10 | 3 | 3 | |
| 1～5年生 | 1～3年生 | 5 | 2 | 2 | |

5. 薬剤散布

| 散布時期 | 基 準 薬 剤 | 散布量 ℓ/10a | |
|--------------------------|-------------------------------|--------------------------|-----|
| ふじの 展葉1週間後頃 （4月下旬） | マジン油乳剤 ダースバンドF ペフロン液剤25 | 200倍 3,000倍 1,000倍 | 300 |

| | | | |
|-------------------|--|----------------------------|-----|
| ふじの開花直前 （5月上旬） | EB1単剤 インターフロアブル 又はオンリーワンフロアブル 又はアンピルフロアブル | 5,000倍 2,000倍 1,000倍 | 320 |
|-------------------|--|----------------------------|-----|

・散布予定日に降雨が予想される場合は、**事前散布**に徹する。

(1) ふじの展葉1週間後頃

- ① モニリア病の葉腐れの防除上最も重要な防除時期なので、薬剤散布は遅れないように適期に散布する。
- ② キンモンホソガ、キンモンハモグリガの発生が多い場合は、デミリン水和剤4,000倍またはノーモルト乳剤4,000倍も使用する。

(2) ふじの開花直前

- ① 黒星病、モニリア病の重要防除時期なので、適期に散布する。
前年発生が多かった黒星病について、「開花直前」と「落花直後」が最も重要な防除時期なので、散布間隔は10日以内を厳守し、散布量不足にならないようにする。
- ② ミダレカクモンハマキの発生が多い園地では、「開花直前」と「落花直後」にロムダンフロアブル3,000倍、カスケード乳剤4,000倍、アタプロンSC4,000倍、BT剤3,000倍のいずれかを選択し、同一薬剤を連続して使用する。

6. マメコバチの放飼と管理

放飼時期の調節のため、筒内の蜂が動き始め、カチカチと音がするようになった頃に、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

展葉1週間後頃の薬剤散布2～3日後に冷蔵庫から出し、放飼する。また、土取り場や防鳥網の設置などの管理も怠らないようにする。

7. 人手授粉による結実確保

本年の花芽の量は平年並みと見込まれているものの、弱小芽が例年より多く、樹や園地によって花芽の量にバラツキが見られるので、安定した結実量を確保するために授粉を徹底する。また、マメコバチ導入園においても、マメコバチの数か不足がみてあったり、不順天候によって十分に活動しない場合には、人手による授粉も行い、結実確保に努める。

授粉用の花粉は対象の品種に対して交雑和合性の高い花粉を選択し、新しい花粉又は貯蔵花粉を用いる。花粉の発芽率を確認し、発芽率に合わせて石松子で希釈して用いる。

| |
|--|
| <p>春は空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期です。山火事など火災の発生防止に努めてください。</p> |
|--|

ぶどう

休眠期防除は晩腐病や黒とう病防除の要！霜害防止対策の徹底を！！

1. 霜害防止対策

晩霜のおそれがあるため、りんごと同様、霜害対策には万全を期す。詳細はりんごの項を参照。ハウスぶどうでは、ハウス内を石油ストーブなどの暖房器具を用いて加温する。

2. 野ネズミ被害の事後対策

野その食害により回復が見込めない場合は、苗木更新する。

3. 園地の点検

雪で傾いた支柱や破損した腕木を取り替え、架線の緩んでいるものは、補強して主枝を結束し直す。また、病害の発生源となる架線上の巻きひげや成り跡、粗皮を除去し処分する。

4. 施 肥

| 〈ぶどう成木の標準施肥量（kg/10a）〉 | | | | |
|-----------------------|------|-----|-----|--|
| 区 分 | 窒 素 | りん酸 | カ リ | |
| 全 量 | 15 | 10 | 10 | |
| 春が追肥の場合（秋に基肥） | 1.5 | 1 | 1 | |
| 春が基肥の場合 | 9～12 | 6～8 | 6～8 | |

5. 病害虫防除

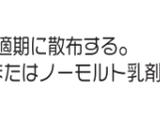
(1) 薬剤散布（スチューベン基準）

| 散布時期 | 基 準 薬 剤 | 散布量 ℓ/10a | |
|-----------------|--|------------------------------|-----|
| 休 眠 期 （4月中旬） | ガットキラー乳剤 デランフロアブル 又はパスポート顆粒水和剤 又はベンレート水和剤 | 100倍 200倍 250倍 200倍 | 200 |

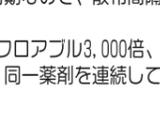
※農薬はりんご園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



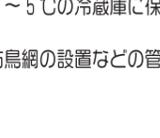
※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



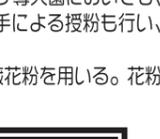
※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



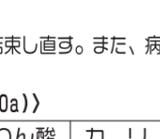
※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



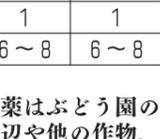
※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



※農薬はぶどう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。

- ・散布予定日に降雨が予想される場合は、**事前散布**に徹する。
- ・休眠期は、晩腐病や黒とう病防除の要なので、必ず散布する。

- (2) **ツマグロアオカスミカメ対策**
 発生が多い園地では、展葉直前（5月上旬）にモスピラン顆粒水溶剤2,000倍を特別散布する。

おとうと

摘芽で大玉生産！霜害防止対策の徹底を！！

1. 霜害防止対策

晩霜の恐れがあるため、りんごと同様、霜害対策には万全を期す。詳細はりんごの項を参照。

2. 摘 芽

大玉、良品生産のために、催芽前（4月上旬頃）までに摘芽を行う。花束状短果枝の大きい花芽を3芽程度残して、他の花芽を指てかき取る。必ず葉芽を残し、人工授粉は必ず行う。
 なお、晩霜の常襲地帯や花芽の少ない樹、樹勢の強い樹では行わない。



摘芽前（花芽数：6個）



摘芽後（同：3個、大きな花芽を残す）

3. 結実確保

結実率は、開花後3～4日まで高いが、年によっては開花後4日以降に10%以下に低下するため、毛はたきやマメコバチ等による授粉を行う。また、開花期が不順天候の場合は、毛はたき等の人工授粉をていねいに行う。
 なお、毛はたき授粉は、少なくとも、5分咲き頃と満開期の2回は必ず実施する。

（品種間の交雑和合性（青森畑園試、グリーンバイオセンター））

| S遺伝子型 | 花 粉 めしへ | 花 粉 | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------------|-----|----|-------|-----|----|------|--------|----|------|-----|-----|------|-------|-------|
| | | 佐藤錦 | 南陽 | Jのしずく | 紅真珠 | 北光 | 紅さやか | ジュノハート | 高砂 | 紅てまり | 紅秀峰 | 香夏錦 | サミット | ナポレオン | ジャポレー |
| S3S6 | 佐藤錦 | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 南陽 | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | Jのしずく | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| S1S6 | 紅真珠 | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 北光 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 紅さやか | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | ジュノハート | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| S4S6 | 高砂 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 紅てまり | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 紅秀峰 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | |
| S1S2 | 香夏錦 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | | |
| S3S4 | サミット | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | | |
| S5S6 | ナポレオン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | |
| S5S6 | ジャポレー | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | |

注) ○：和合性あり ×：和合性なし

4. 病虫害防除

(1) 薬剤散布

| 散布時期 | 基 準 薬 剤 | 散布量 L/10a |
|------|-------------|--------------|
| 発芽前 | マシン油乳剤(97) | 50倍 350 |
| 開花直前 | オーソサイド水和剤80 | 800倍 450 |

・散布予定日に降雨が予想される場合は、**事前散布**に徹する。

※農薬はおとう園の周辺や他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



(4) ミダシカクモンハマキ対策

剪定枝に越冬卵が残り、発生源となる場合があるので、幼虫のふ化が始まる4月下旬までに剪定枝の処分を終える。
 発生が多い園地では、開花直前と満開5日後にカスケード乳剤4,000倍、又はアタブロンSC4,000倍のいずれかを連続散布する。

野菜

温度変化が激しい時期なので、きめ細かい温度管理を行いましょう。

トマト

1. 鉢上げ後の管理

- ① 徒長を防ぐため、葉が重ならないように本葉5枚頃と本葉8枚頃に鉢のぞらしを行う。
- ② かん水は朝に行い、夕方には表面が乾く程度とする。
- ③ 気温が35℃以上では高温による苗焼けが発生しやすく、また15℃以下では花芽分化に悪影響を与えるので、温度管理に注意する。

2. 定植準備

- ① 雪害によるパイプ等の歪みや被覆ビニールの破損の有無を確認し、速やかに補修等を行う。
- ② 堆肥や改良資材等は定植2週間前に、基肥は定植10日前に施用する。
 （施肥基準（kg/10a））

| | 窒 素 | りん酸 | カ リ | 備 考 |
|-----|-------|-------|-------|--|
| 新作地 | 10～12 | 30～35 | 10～12 | ・施肥量は土壌分析に基づき決める。 ・接ぎ木苗の場合は窒素成分量を10～20%減ずる。 |
| 連作地 | 0～6 | 20～25 | 0～6 | |

- ③ 定植の1週間前にはマルチを張り、深さ15cmの地温を15℃以上に高めておく。

3. 定 植

- ① 作業はなるべく温暖な日に行う。
- ② 定植は、根鉢上面と畝面が同じ高さになるような深さで花房を通路側に向けて植える。
- ③ 夜間の冷え込みが予想される場合は、ハウスを早めに閉じ、保温に努める。また、可能な場合は、不織布等でバたかけを行い保温する。

メロン

1. 育苗管理

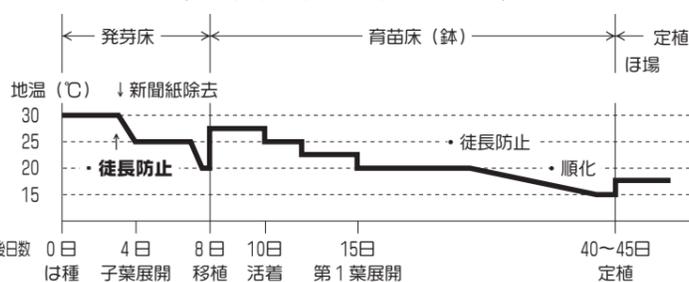
(1) 移植（鉢上げ）

- ① 移植1週間前に鉢に土を詰め、ビニールで被覆し地温を高めておく。
- ② 苗立枯病防止のため深植えしないようにし、温度が下がり始める午後3時頃までに終わる。

(2) 移植後の管理

- ① 地温は下図を参考に管理し、気温は最低15℃～最高30℃の範囲を目標に管理する。
- ② 鉢上げ直後から1～2日間はトンネルを密閉し、日差しが強い時は遮光する。最高気温は30℃以上にしない。
- ③ 3日目からはトンネルを開閉して換気を行い徒長を防ぐ。
- ④ 鉢の表面が乾いたら、午前中に地温を下げないように温水をかける。
- ⑤ 葉と葉が重なり合うようになったら、鉢ぞらしを行い、苗の受光体勢をよくする。この時、外側と内側の苗を入れ換え、生育を揃える。
- ⑥ 定植の7日前から夜温を徐々に下げ、苗を外気に慣らす。

（発芽床と育苗床（鉢）の床温（地温）管理）



2. 本畑の準備

- ① 堆肥や改良資材等は定植2週間前に、基肥は定植10日前に施用する。
- ② 畝は、畑地では20cm、転作田では30cmの高畝とする。
- ③ 定植の1週間前にはマルチ、トンネルを張る。マルチは、地温上昇効果や抑草効果の高いグリーンマルチを使用し、深さ20cmの地温を18℃以上に高めておく。

3. 定 植

- ① スムースな活着には、外気温・本畑地温を育苗終期より高めにする必要があるため、定植作業はなるべく

べく温暖な日に行う。

- ② 夜間の冷え込みが予想される場合は、早めにトンネル被覆資材を閉じるとともに、保温キャップや不織布などの資材の併用により保温に努める。

小麦

排水対策や適期追肥に努めましょう。

1. 湿害防止

転換畑等では、融雪水、降雨水が長時間停滞しないよう、明きょや排水溝の補修、補強を行い、ほ場外に速やかに排水できるようにしておく。

2. 追 肥

消雪後、幼穂形成期までのなるべく早い時期に追肥すると効果が高まる。
 施肥量は窒素成分で2kg/10aを基準として、融雪遅れによる生育遅延、ほ場の地力等を考慮して増減する。

3. 病虫害防除

越冬前の生育量が多く繁茂しているほ場では、うどんこ病の被害が大きくなるので、適期防除に努める。

花き

寒暖の差が大きい時期なので、こまめな温度管理を心がけましょう。

キク

1. 7月・8月出し栽培の管理

(1) 育 苗

定植前は、15～20日育苗を基本とし、定植期に合わせて計画的に挿し芽を行う。育苗期間中に高温に遭遇した場合、早期発蕾となる品種もあるので、電照やエスリルにより花芽分化を抑制する。

(2) 施 肥

全量で窒素成分1～2kg/aを基準とし、基肥として6～7割を施用する。追肥は、葉色や生育の状況に応じて適宜行う。

(3) 定 植

ハウス栽培では、4月が定植適期となる。品種毎の開花期や摘心の有無に合わせて定植を行う。早すぎるとう奇形花や柳芽が発生しやすくなり、遅すぎると草丈確保が困難となるので注意する。

(4) 温度管理

温度変化が激しい時期なので、定植後低温が予想される場合には、保温を行うなどこまめな温度管理に努める。

トシコギキョウ

1. 夏出し栽培の管理

- ① 秋定植越冬栽培では、日照量の増加、気温の上昇に伴い莖が伸長してくるので、発蕾まで極端に乾燥させないように注意する。品種により異なるが、低節位から分枝が発生した場合は早めに整枝して主莖の伸長を促す。
- ② 4月定植では、定植前に地温を12℃以上に高めておき、定植後の温度管理にも注意する。ほ場のpHが低い場合、生理障害が発生しやすいので、pH6.5を目標に土壌改良する。苗は本葉2.0～2.5対頃が定植適期であり、これより遅れないように定植する。活着までは、乾燥しない程度のかん水とし、根の伸長を促す。

2. 秋出し栽培のは種・育苗

- ① 育苗用土は肥料成分が含まれていて清潔なものを使う。追肥を主体に管理する。
- ② は種～発芽までは、昼温25℃前後、夜温15～18℃を目安として保温に努める。は種後は乾燥させないように保温に努める。底面給水の場合、用土が十分吸水したらトレイを水から上げ湿害を防止する。
- ③ 発芽揃い後は、昼間15～20℃、夜間15℃程度で管理する。かん水は上部からのかん水に切り替える。追肥は、生育をみながら7～10日間隔で液肥を施用する。

ストップ! 農作業事故!!

春の農作業安全運動実施中!

期間：平成28年4月1日～5月31日

○安心な農産物生産のため、農薬使用状況を必ず記録しましょう。
 ○農薬使用の際には、必ず使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。
 ○短期暴露評価の導入により使用方法の変更が予定されている農薬は、容器に表示された使用方法ではなく、変更後の使用方法に基づいて使用しましょう。

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。

鶴田町農業支援センター「豊明館」となり
午前9時から午後5時 ☎22-2111（役場産業観光課）

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～

URL <http://www.town.tsuruta.aomori.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>

××××× **わらの焼却はやめましょう** ×××××